

桐生市の足跡

年代	出来事	スポット
縄文時代		ちねみがはいといせき 千綱谷戸遺跡など (絹然記念館)
古墳時代		中塚古墳など (新里)
奈良時代		武井廃寺塔跡 (新里)
714年	上野ほか4国の調(税)が 「あしぎぬ」とされる	
795年	美和神社 官社となる	
801年	山上多重塔建立される	山上の多重塔 (新里)
1180年	桐生六郎が足利忠綱と ともに源頼政と戦う	
1350年	桐生国綱が松杓山城を 築く	松杓山城 (梅田) 桐生氏関連
1573年	桐生氏滅ぶ 由良氏の統治へ	鳳仙寺・青蓮寺・ 普門寺
1590年	徳川家康関東に入国 由良氏は牛久へ移封	
1591年	桐生新町の町立てが はじまる	重伝建地区
1600年	関が原の合戦に際し、 旗綱2,410疋献上	桐生天満宮
1661年	桐生領が館林藩領となる	
1656年	桐生新町で 牛頭天王祭礼を行う	桐生祇園のはじまり
1738年	西陣から高機が伝わる	考機姫神社 (菱町)
1779年	桐生領が酒井忠休の 領地となる	陣屋跡
1877年	森山芳平ら ジャカード機を購入	桐生織物
1889年	両毛線開通	
1911年	足尾鉄道開通	
1913年	東武鉄道開通	
1919年	桐生倶楽部創立	桐生倶楽部
1921年	市制施行	
1928年	上毛電鉄開通	西桐生駅
1946年	岩宿遺跡が相沢忠洋 により発見される	相沢忠洋記念館
1953年	桐生が岡動物園開園	
1971年	桐生が岡遊園地開園	
1986年	桐生川源流が森林浴の 森百選に選ばれる	桐生川源流
2005年	ぐんま昆虫の森開園 桐生市・新里村・黒保根村が合併	
2012年	桐生新町重要伝統的 建造物群保存地区選定	
2013年	篠原涼子さんを 桐生市観光大使に任命	
2015年	市内6件の構成文化財が 日本遺産に認定される	
2021年	市制施行100周年	
2023年	桐生天満宮が 国指定重要文化財となる	
2024年	桐生市重伝建地区公開活用施設 (まちなか交流館)開館	

桐生市桐生新町重要伝統的
建造物群保存地区

住 桐生市本町1及び2の全域
並びに天神町1の一部

☎ 0277-32-3914

交 桐生駅より徒歩25分



1591年(天正19年)に桐生新町が形成されて以来、この地区は織物の中心地として桐生の経済発展を支えてきました。桐生の織物業は大正期日から昭和初期に最盛期を迎え、当時の桐生新町の町並みには賈縫商や糸商、呉服商、染物業など織物業の店舗などが立ち並びました。

県繊維工場試験場

住 桐生市相生町5-46-1

☎ 0277-52-9950

交 相老駅より徒歩10分



1905年(明治38年)染織業の技術改良のために前身が設立され、のちに桐生と伊勢崎の試験場が統合されて現在の繊維工場試験場となりました。製織・染色・加工の研究ほか、遺伝子組み換えカイコ絹糸研究も行っています。

桐生織物会館旧館

住 桐生市永楽町6-6

☎ 0277-43-7272

交 桐生駅より徒歩5分

1934年(昭和9年)に桐生織物向上のため設立された桐生織物同業組合の事務所として建てられました。スクラッチタイル張りに青緑色の洋瓦葺、ステンドグラスを用いた洋風の外観となっています。現在は「桐生織物記念館」として一般公開しています。

20ページへ

織物参考館“紫”

住 桐生市東4-2-24

☎ 0277-45-3111

交 桐生駅より徒歩20分

「織物参考館“紫”」は、森秀織物の旧釜場、旧整経場、旧ノコギリ屋根工場などを利用した体験型資料館です。館内では、染色や手織の体験や織物の歴史学習、古織機などを見学することができます。

4ページへ

無鄰館

住 桐生市本町1-5-5

☎ 0277-44-0277

交 桐生駅より徒歩25分

もとは「北川織物工場」といい、現在は「無鄰館」として建築設計事務所のほか創作工房としても利用されています。現存するノコギリ屋根工場は、1916年(大正5年)に建築され、1960年(昭和35年)頃まで操業していました。

18ページへ

白瀧神社

住 桐生市川内町5-3288

☎ 0277-44-0754

交 桐生駅より車で15分

京都から織物技術を伝えたという「白瀧姫」など、伝説の織物の神をまつる神社です。境内には耳をあてると機音が聞こえたという「降臨石」と呼ばれる大岩や、樹齢300年以上といわれるケヤキがあり、神秘的な雰囲気漂っています。

8ページへ

彦部家住宅

住 桐生市広沢町6-877

☎ 0277-52-6596

交 北関東太田桐生ICより車で15分

彦部家住宅は関東地方でも最古級の民家建物として有名ですが、この主屋の北側は江戸時代より染織工場として使用されてきました。さらに、明治から大正にかけてはノコギリ屋根工場や寄宿舍、医務所を造築し、近代的な織物工場になりました。

8ページへ



旧曽我織物工場

住 桐生市本町1-7-15

☎ 0277-46-6467

交 桐生駅より徒歩20分

1922年(大正11年)に建築された大谷石造り5連のノコギリ屋根工場には、屋根に換気塔が立ち、壁には丸型の換気窓が設けられています。重伝建地区内で見られるノコギリ屋根工場では代表的なものです。

C

本町
エリア



旧堀祐織物工場

住 桐生市巴町1-1126

☎ 0277-46-6467

交 桐生駅より徒歩5分

堀祐織物工場は、綿糸に人造絹糸、経糸に絹を使用し独特のリボン織の開発に成功しました。現存する石造のノコギリ屋根工場は、外壁を大谷石、内部を漆喰塗で仕上げられています。現在は、美容室として利用されています。

F

本町
エリア



森秀織物

住 桐生市本町4-2-24

☎ 0277-45-3111

交 桐生駅より徒歩20分

木造鉄板葺きの3連のノコギリ屋根工場は、現在も稼働している工場です。高級織物であるお召しの技術を活かし、文楽人形の衣装や歌舞伎の装束などを織るなど、桐生織物の伝統的技術の復元とその継承に努めています。

I

本町
エリア



◀ぐんま絹遺産

古くから養蚕・製糸・織物業が盛んだった群馬県は、明治時代に入るといち早く近代的手法を取り入れて世界的な絹織物の産地となります。地域振興や観光に役立てるため、それら県内に残る養蚕・製糸・織物関連の建物や文化などを対象に登録がすすんでおり、桐生では県内最多となる構成資産が登録されています。(令和7年3月31日現在)



MAEHARA20th

住 桐生市広沢町6-850-5

☎ 0277-46-6467

交 北関東 太田・桐生ICより車で15分

MAEHARA20thは、旧合名会社飯塚織物工場跡を活用したクラシックカーの博物館です。飯塚織物工場は機械設備が充実した個人経営工場の先駆けで、輸出向けの高級織物を生産していました。

B

広沢
エリア

旧模範工場桐生燃糸合資会社
事務所棟(絹然記念館)

住 桐生市巴町2-1832-13

☎ 0277-44-2399

交 桐生駅より徒歩5分

1917年(大正6年)に建築された燃糸工場事務所棟で、県内最古級の洋風石造建造物です。かつては敷地内にノコギリ屋根工場が並び建ち、糸の「撚り掛」を機械化した、全国6カ所の「模範工場」の一つでした。現在は桐生市の郷土資料を常設展示し、年4回企画展を開催しています。

E

本町
エリア



後藤織物

住 桐生市本町1-11-35

☎ 0277-45-2406

交 桐生駅より徒歩20分

木造のノコギリ屋根工場のほか糸蔵、織物倉庫などは、織物生産のシステムを今に伝えていきます。趣きある建物や木舗装は、映画やドラマのロケなどで使用されました。

H

本町
エリア

繭と絹スポット

絹遺産群
(ぐんま絹遺産)

赤城型民家

住 桐生市新里町鶴ヶ谷460-1

ぐんま昆虫の森園内

☎ 0277-74-6441 (ぐんま昆虫の森)

交 北関東伊勢崎ICより車で25分

赤城山南麓に多く見られる茅葺き屋根の前面中央を切り上げた建築様式で、屋根裏を養蚕に利用するために光と風を取り入れやすい構造になっています。

A

新里
エリア

日本織物株式会社発電所跡
及び煉瓦積遺構

住 桐生市織姫町6-1

☎ 0277-46-6467

交 桐生駅より徒歩15分

日本織物株式会社が1889年(明治22年)に運転を始めた水力発電施設跡で、現在残っているものは大正期のもの。工場や寄宿舍だけでなく、桐生市(当時は町)内の電灯にも利用されました。

D

本町
エリア



金善ビル

住 桐生市本町5-345

☎ 0277-46-6467

交 桐生駅より徒歩10分

G

本町
エリア